

研究班企画（一般）

RCPC

◎菊池 春人<sup>1)</sup>

慶應義塾大学病院 臨床検査医学<sup>1)</sup>

RCPCについては検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会のカリキュラムに組み込まれ、また学会などでも行われることが多くなってきたため、ご存じの方、実際参加された方も多いと思うが、一応説明をしておくこととする。一言でいうと「症例の検査データをを用いて検査値の解釈方法を学んでいくという学習法」ということになると思う。具体的には年齢(年代)、性別と主訴程度の限られた臨床情報と検査データを提示して、患者の病態、病状を推測していくというものであり、病名はもちろん病歴、身体所見などの臨床経過はほとんど示さないのが一般的である。検査データを十分に考えていく必要があるため、データ解釈の方法、意義を学ぶには非常に有用な手法である。

RCPCに限らず検査データ解釈の系統立ったアプローチとしては信州大学で用いられている、13の基本項目に分けて考えていくというものがあり、見落としのない解釈が可能であるので、興味のある方は参考文献をご覧いただければと思う。

今回のRCPCでは信州大学方式には従わないが、なるべく検査データの背景にある病態生理を理解して解釈す

る、という立場で進めていきたい。RCPCは参加者とともに双方向的に進めていくのが特長のひとつでもあり、今回もそれに従って一緒にダイスカッションしながら考えていければと思っている。

症例としては2症例を予定しており、症例の検査データは抄録とは別に事前提示される予定である。

参考文献

- 1) 本田孝行, 菅野光俊. 検査値を読むトレーニング 信州大学 R—CPC (第1回) 腹痛にて入院した 60代女性. 検査と技術 2012 ; 40 : 58—63
- 2) 本田孝行. 検査値を読むトレーニング: ルーチン検査でここまてわかる 医学書院 2019